

FORUM

Vol.26

大阪府立大学
高等教育開発センターニュース
「フォーラム」

第26号

CONTENTS

巻頭言 2

公立大学法人大阪府立大学 理事長・学長 辻 洋

コラム 3

教養知の現在

共通教育推進センター長 杉山 雅夫

授業報告 4

地域保健学域 総合リハビリテーション学類
栄養療法学専攻 講師 黒川 通典

学生調査データ分析報告 5

ー府大生は1～4年生にかけてどの程度変化するか(2)ー

コモンズTA、はじめました！ 6

『レポートの書き方：アカデミック・ ライティング入門編』を刊行 7

学生FDスタッフ活動

編集後記 8



大阪府立大学
OSAKA PREFECTURE UNIVERSITY

巻頭言

● 公立大学法人大阪府立大学 理事長・学長

辻 洋

TSUJI HIROSHI



辻 洋

TSUJI HIROSHI

公立大学法人大阪府立大学 理事長・学長

1978年より24年間の民間システム科学関連研究所勤務(この間、1987年、Carnegie-Mellon大学客員研究員)を経て、2002年大阪府立大学大学院工学研究科教授。2012年現代システム科学域長(～2013年)、2013年理事・副学長(教育研究担当)(～2015年)。博士(工学)、技術士(情報工学)。専門分野:経営情報システム。2015年4月より現職。

大学の新しい経営資源としての「つながり」

私の研究分野の経営情報システムでは、組織の資源に関するデータをコンピュータシステムに蓄積し、そこから経営活動に役立つ情報を活用することを目的としている。私がこの分野に入った時には、組織の資源は、「ひと・もの・かね」と言われていた。確かに人事部門、経理部門、施設部門という部署はどのような組織においても存在し、これらの部署の事務処理では、伝統的な経営資源に対するコンピュータを用いた管理手法が順次確立されていった。

その後、組織におけるコンピュータの管理対象は、金融機関におけるリスク管理、製造業や流通業におけるサプライ・チェーン管理、自治体における文書管理などに広がっていった。その他にも顧客との関係をコンピュータで管理するようになった。CRM (Customer Relationship Management) と呼ばれるが、顧客の購買履歴などをもとに製品企画や販売戦略を練るものである。ここでは「顧客とのつながり」を大切にしようというのが根本にあるのだと思う。

バブル経済の再来は望めず、高齢化が進むわが国では、大学においても「ひと・もの・かね」以外にブランドのような目に見えにくいもの「大切にすべきもの(経営資源)」として見出していかなければならない。私は、その候補として「つながり」をあげたい。もちろん、大学の新しい経営資源としての「つながり」はコンピュータで管理するものに限定

したくないし、すべきでもない。皆で知恵を絞って、大阪府立大学発の「つながり」に関する新しい考え方を発信できればと思う。この10年、産学官連携、地域連携、国際交流、卒業生室などの組織は、この「つながり」を作ることがミッションであったが、もう一工夫いるように感じている。

「つながり」には、人と人とのつながり、組織と組織のつながりがわかりやすいが、より抽象的に「目的」と「目的」のつながりや「行動」と「行動」のつながり、目的と「行動」のつながりもある。自分のミッションを組織のミッションとどうつなげるか、自分が設定した目的を達成するための他からの協力をとりつけるなど手段をどうつなげるか、自分が起こした行動に対する反省などいろいろな「つながり」に関する議論を行うことにより、大学の活性化ができればと思うし、活性化できると思う。

「つながり」は二つの要素だけのものではない。三つ以上の要素のつながりを考えるとアイデアは膨らむ。二つの要素を結んだ場合、その線は1本であるが、三つの要素なら3本、四つの要素なら6本、五つの要素なら10本と増えていく。「つながり」には方向を持っているものがあつたり、粘着性とか強度をもったりするものもあろう。府立大学発のつながりモデルが他の大学にも Good Practice として参照されるときが来るのを楽しみに待ちたい。

教養知の現在

世界中に張り巡らされたネットワークとコンピューターのハード・ソフトの急速な発展により、政治・経済はもとより、娯楽、趣味に至るまで、社会におけるほとんどすべての活動がコンピューターに依存するようになっていきます。Facebook や LINE で常時連絡を取り合い、会議はオンラインで行われ、商品売買はネット上で決済され、株はコンピューターで自動的に売り買いされる。知らないことはネット検索ですぐに情報を得られ、MOOCs によって有名大学の授業が自宅で受講できる。こうした状況の中で、知の大きな変化が生じることは当然のことでしょう。

柄谷行人は、まだ 1980 年代頃まで大きな力を持っていた文学的知が社会的な意味を失い、単なる娯楽に堕してしまったと述べています。こうしたことは過去に関わる知全般に当てはまるのではないのでしょうか。つまり従来の知はもはや温故知新と言われたような、過去の規範を学ぶことによって未来のことを知るという機能を喪失してしまったのではないのでしょうか。というのもコンピューターによって拓かれてゆく未来は、過去の人々にとってのみならず、我々にとっても未知のものであるからです。原発再稼働のような政治的決断や新たな経済活動は技術者の助けがなくてはもはや不可能です。Google や Apple は大きな影響力を持ち、我々の生活をも変えています。そして我々はそうした技術者に多く

を期待し、よりよい世界を望んでいます。

しかしそこには大きな問題があります。すなわち、そこでは人間の文化的な遺産や叡智というものが失われつつあるのではないかということです。Google は、世界中の書籍を電子化することを考えていますが、それは、誰もが読めるようにという目的ではなく、AI に読み込ませ、巨大なデータを集積させて、技術的に利用するためだといわれています。そこはアルゴリズムが支配し、人間的な感情は存在価値を持たない領域です。

もし、かつて我々が信じていたような経済成長神話が崩壊したように、科学技術神話が崩壊し、さらに過去の知へのアクセスも失われてしまったら、我々には何が残されるのでしょうか。我々には、バランスが必要です。全てが要素に還元可能であるとする科学技術的還元主義で人間を理解することはできるのでしょうか。他方、感情の先走る文化的宗教的ナショナリズムは、多くの敵と憎しみを生み出すだけでしょう。よりよい世界とは、個々の人間がそれぞれの自律した価値を主張し得、社会の中で他人を認め合いながらそれぞれの居場所を確保することなのではないのでしょうか。画一的、あるいは機械的なアルゴリズムに基づく、一面的な技術信仰に従った結果、人類が多くを失うのは危険なことです。技術者とともに、それ以外の多くの立場の人が将来の決定に関与して多様な知のせめぎ合う世界が益々必要とされているのではないかと思います。そのためにも我々は、多様な知に配慮しそれが将来的に失われないように積極的に関与する必要があるでしょう。なぜなら富や利便性だけが人間を幸福にしてくれるわけではないからです。

杉山 雅夫

SUGIYAMA MASAO

共通教育推進センター長

1987年大阪女子大学助手、講師、助教授を経て2002年大阪女子大学人間関係学科教授、2005年統合により大阪府立大学へ。2011年から高等教育推進機構教授。専門は、日本の文化受容に関わる研究。



Habikino いちじくプロジェクト

黒川 通典

(地域保健学域 総合リハビリテーション学類 栄養療法学専攻 講師)

1. はじめに

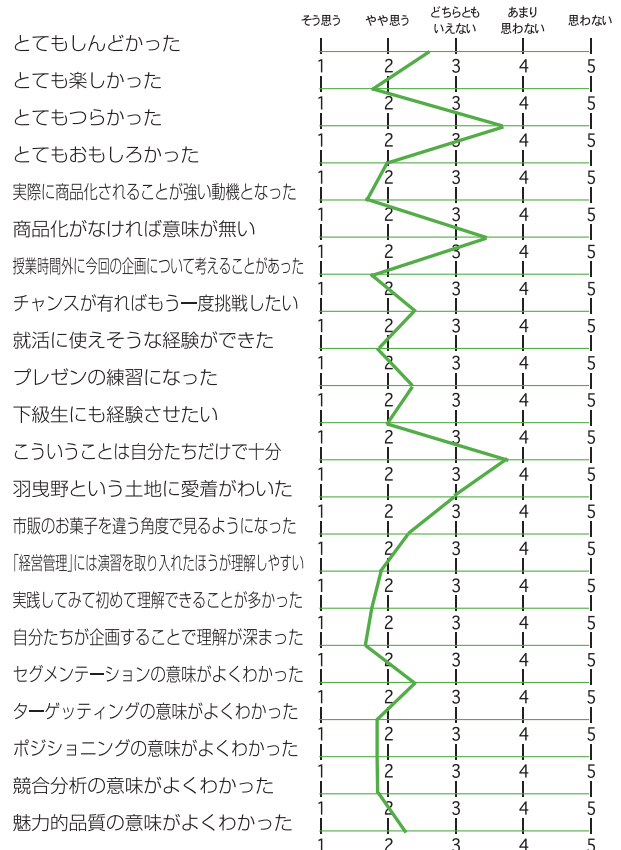
管理栄養士の養成課程については、平成14年度に新カリキュラムとなり、給食管理が給食経営管理論となり「マーケティングの原理や応用についての理解」が教育目的に加わった。給食管理は給食実習で実践できるが、経営管理については教科書の説明だけでは十分な理解は困難だろうと考え、商品開発を演習として取り入れた。

2. 商品開発

3年生を6つの班に分け、すべて班で話し合って進めていくこととした。地元羽曳野市の特産品であるいちじくを使ったスイーツの開発を課題として与えた。自分たちが作りたいものではなく、売れるものを作ることが使命である。優秀作品は商品化し、市場に投入できる。これ以上の動機はないと考えたが、いざ始めてみると、学生たちは困惑している。何から手をつけたらいいかわからない。よく聞いて見ると、いちじくそのものを知らない学生も少なからずいるという。驚いた。商品コンセプトは、「いちじくを知らない若い世代にもいちじくに親しんでもらえる和菓子」に決まった。学生たちはセグメンテーションやターゲットティング、競合分析などを行った。また府大らしさの表現方法、魅力的品質についての検討を行った。パッケージデザインなども考えた。そしてさらに試作品を何度も繰り返し作成した。休みの日にいちじく農家の方々にも会いに行った。プライベートで出かけたときも、まずお菓子屋さんに目が行くという。かなりの「のめりこみ」ようだ。大丈夫だろうか。そして、いよいよプレゼンテーションと試食会が始まった。意外という言葉が適切かどうかかわからないが、「ブラックタピオカを使ったアジアティストないちじくわらびもち」など、秀逸なアイデアがポンポンと飛び出した。審査委員長である製菓会社の社長から絶賛された。最優秀作品を決めることができず、各班の作品のいいところを取り入れて商品化することに決まった。製菓会社で試作品を作り、オープンキャンパス、地域のイベント等で試食とアンケート調査を行った。

3. 学生主体型授業

商品開発は平成27年度で3年目を迎える。今年度も学生に商品開発をやってみたいか尋ねたところ、やってみたいと回答した学生がわずかに多かったので、続けている。今回の商品開発のようにオープンな指示だけで、プロセスは自分たちで考えなさいという授業だと、普段は「めんどくさい」が口癖の学生が、地域住民と見事に積極的なコミュニケーションを図るなど、時として予想外の学生の一面を垣間見ることができる。学生の発想力もそうだが、いろいろなところで驚きと感動を得られることが、学生主体型授業の醍醐味ではないかと感じる。



授業終了後の学生アンケート(n=55, 平成25・26年度実施分)

府大生は 1 ～ 4 年生にかけてどの程度変化するか (2)

今号では、『府大生は1～4年生にかけてどの程度変化するか比較分析報告書』（2014年5月刊行）の中から、一年生調査/上級生調査の間8「大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか」の得点を、GPAタイプ別に分析したデータを報告します。

1年時『一年生調査2009年』

(4) ひんぱんにあった

利用した	GPA上位群	GPA中位群	GPA下位群
授業課題のために図書館の資料を利用した	2.8	2.8	2.8
インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした	3.4	3.4	3.4
授業課題のためにWeb上の情報を利用した	3.4	3.2	3.4
提出期限までに授業課題を完成できなかった	1.7	2.0	2.5
インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした	3.1	3.1	3.1
授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた	1.5	1.5	1.5
授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした	1.8	2.3	2.8
授業に遅刻した	1.9	2.3	2.7
授業をつまらなく感じた	3.1	3.1	3.4
授業中に居眠りをした	3.1	3.1	3.2
教員の研究プロジェクトに参加した	1.2	1.4	1.4
大学の教職員に将来のキャリアの相談をした（卒業後の進路や職業選択など）	1.4	1.4	1.4
単位とは関係ない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した	1.3	1.4	1.4
教員の親近感を感じた	2.1	2.1	2.1

(1) まったくなかった

(4) ひんぱんにあった 4.00

中間値

● GPA上位群
■ GPA中位群
▲ GPA下位群

(1) まったくなかった

教授に親近感を感じた
大学の教職員に将来のキャリアの相談をした（卒業後の進路や職業選択など）
単位とは関係ない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した
教員の研究プロジェクトに参加した
授業中に居眠りをした
授業をつまらなく感じた
授業に遅刻した
授業を欠席した
授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた
授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした
提出期限までに授業課題を完成できなかった
インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした
授業課題のためにWeb上の情報を利用した
授業課題のために図書館の資料を利用した

 GPAの高低がもっともわかりやすく表れるのは、“授業を欠席した”“授業に遅刻した”“授業をつまらなく感じた”といった学習行動です。GPA下位群は上位群に比べて、1・3年時ともにこれらの得点が高く、これらの学習行動を回避する、いわゆるまじめな学生が、GPAで高得点を取っている可能性が高いと思われます。(深野)

コモンズTA、はじめました！

コモンズTAを導入した背景とその役割

2011～2012年、中百舌鳥キャンパスのC5棟、B2棟にラーニングコモンズ(通称コモンズorラーコモ)が開設されました。コモンズでは図書館のように個別に学習することも可能ですが、可動式の机を使って友だちとディスカッションをしたり、プロジェクターが備わった部屋でプレゼンテーションの練習をしたり、共同で学習することができます。開設されて以降、コモンズを利用する学生は増加していますが、一方で、文献を検索する方法や、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法を教えてくださいという要望が寄せられるようになりました。これらの要望を受け、コモンズの利便性を向上させるため、そして学生の学習支援の強化を図るために、大学教育再生加速プログラム(AP)^{*}の一環として、2015年4月から「コモンズTA(Teaching Assistant)」が中百舌鳥キャンパスB2棟コモンズに常駐することになりました。コモンズTAは主に学域1～2年生を対象に学習支援を行う大学院生スタッフのことで、現在は工学研究科・生命環境科学研究科・理学系研究科・人間社会学研究科の大学院生で構成され、その専門分野も多岐にわたります(コモンズTAのスケジュールやプロフィールについては図書館webサイトをご参照ください <http://www.osakafu-u.ac.jp/library/facility/lc/ta.html>)。コモンズTAが常駐している時間は授業のある期間の月曜～金曜10時30分～18時30分で、B2棟のコモンズTA席で学生の相談に対応します。大学での学習は高校生の時とは異なるため、そのギャップを埋めること、また大学の環境に慣れるための支援をコモンズTAは行います。具体的には、コモンズTAの主な役割として(1)学域生を対象としたレポートの書き方、プレゼンテーションに関するアドバイス(2)学習の進め方についてのアドバイス(3)文献・論文の探し方・読み方についてのアドバイス(4)学内サービス(学生ポータル、学習・教育支援サイト等)の案内(5)ソフトウェア(Word、Excel、Power Point等)の活用指導を行います。

学生の皆さんへ

学域1年生は前期の「初年次ゼミナール」で出された課題(レポートやプレゼンテーション等)に取り組む際にコモンズTAにアドバイスを求めるのも良いですし、後期には課程配属の相談を行うというのもコモンズTAの効果的な活用方法です。もちろん、学域3年生は大学院への進学について相談することもできます。コモンズTAは皆さんの先輩ですので、学習や府大のカリキュラムについて教員には聞きにくいことを気軽に相談することができます。最初は少し話しかけにくいかもしれませんが、府大で充実した学習生活を送るために、コモンズTAを積極的に活用してみてもいいのではないでしょうか。(畑野)



^{*} 本学は、平成26年度文部科学省「大学教育再生加速プログラム(AP)」にテーマⅠ「アクティブ・ラーニング」・テーマⅡ「学修成果の可視化」の複合型で採択されました。この事業では、学士課程全体にアクティブ・ラーニングを体系的に展開し、その学修成果を学生調査やポートフォリオにより可視化すること、またこれらの結果を受けて教育内容・方法等の改善に繋げていくことを目指しています。

『レポートの書き方: アカデミック・ライティング入門編』を刊行

このたび学術情報センター図書館と高等教育推進機構が共同して、「レポートの書き方」についての簡単な解説書を作成し、1年生全員に配付しました。

高校までの国語教育で行われている「書くこと」はいわゆる作文や感想文といった「随筆系」の文章が対象で、主にその文学性が評価されます。そこでは何を考えたかよりも何をどう感じたかを表現することに重点が置かれ、自分で考えたことを論理立てて説明する「論説系」の文章を書くことを教わる機会はほとんどありません。にもかかわらず、大学では多くの科目で、書き方の指導もなくレポート課題が出されたりします。多くの学生は戸惑って、どうやって書いてよいかかわからず、インターネット情報のコピー＆ペースト(コピペ)に^{はし}てしまうというのが現状かもしれません。

この小冊子は、大阪府立大学の学生の戸惑いを少しでも減らすために、『新版論文の教室』(戸田山和久著NHKブックス)、大阪大学の『阪大生のためのアカデミック・ライティング入門』や早稲田大学のウェブサイト『アカデミック・ライティング力を磨こう』の内容などを参考に、大阪府立大学の学生用に編んだものです。

学術情報センター図書館からは中村洋一と難波利幸が、高等教育推進機構からは前川寛和と藤岡真由

美が参画して編集委員会を構成しました。また、原稿に対し多くの先生方から有益なご助言を頂きました。有り難うございました。

今後適宜改訂する予定です。多くの学生・教員からのご意見・ご指摘をもって、さらに充実した小冊子になっていくことを願っています。

(本冊子のはしがきと編集後記から)



☆冊子のPDFファイルを公開しています。

<http://repository.osakafu-u.ac.jp/dspace/handle/10466/14316>

「しゃべり場 ～大学に来る意味って何だろう～」開催

学生
FDスタッフ
活動

5月14日、B2棟ラーニングコモンズにて、学生FDスタッフ企画「しゃべり場 ～大学に来る意味って何だろう～」が開催されました。

学生FDスタッフと学生団体代表者(ファシリテーター役)を含め、33名の学生が参加。5～6名の班を作り、(1)大学に入学した理由、(2)実際に入ってみて思ったこと、(3)理想と現実のギャップを埋めるためにどうすればいいか、という3つの論題について、意見交換し、その内容をグループ毎に発表しました。終始活発な議論が交わされ、好評のうちに終了しました。

参加した学生から、「色々な意見が聞けて面白かった」、「また開催してほしい」等の感想が出されました。



編集後記

「高等教育開発センターニュース『フォーラム』」は、一年に三度の発行を計画しております。今年度、最初の冊子を、このように7月に発行することができました。今年度も、計画通り、三回の発行ができることと思います。とりわけ年度当初のお忙しいなかで、ご執筆いただいたみなさまに御礼申し上げます。

ラーニングコモンズの充実のため、TAが配置されました。ラーニングコモンズは、ふだん教員が利用しない場所です。このような試みがなされていることは広くは知られていないことと思います。詳細を本誌に掲載しております。(高根)

大阪府立大学 高等教育開発センター センターニュース「フォーラム」

平成27年7月10日発行

発行者 公立大学法人 大阪府立大学
高等教育推進機構 高等教育開発センター
〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1
<http://www.fd.las.osakafu-u.ac.jp/>
印刷所 くすの木印刷
〒586-0081 大阪府河内長野市緑ヶ丘北町25-21

<編集委員> 新井 隆景(センター長) 小泉 望 小島 篤博 高根 雅啓 高橋 哲也 谷口 栄一 塚本 民雄 畑野 快 林 利治
深野 政之(主任) 星野 聡孝(副センター長) ペピン ハンス・ヨアヒム 水鳥 能伸 森岡 次郎 山崎 正純
<事務担当> 岩上 由紀 長尾智香子 藤岡 真弓